

採掘石灰石、5億トんに

宇部興産、美祿・伊佐鉢山に記念碑

宇部市に本社を置く総合化学メーカー、宇部興産が美祿市の宇部伊佐鉢山で採掘した石灰石の量が16日、5億トんに達した。採掘開始から69年目の到達で、同鉱山伊佐鉢区展望台で29日、

記念碑の除幕式があった。同社役員や協力会社の代表ら31人が出席。記念碑は同鉱山で採掘した石灰石で作った。同社の山本謙社長らが除幕した。同社伊佐セメント工場の伊藤芳明工場

宇部伊佐鉢山での石灰石採掘5億トン達成記念碑を除幕する宇部興産の関係者ら29日、美祿市



長はあいさつで「今後も一日一日を大切に、適度な緊張感を持って安定、安心、安全な操業を続けたい」と決意を新たにしました。

除幕式の後、美祿市大嶺町の美祿グランドホテルで地元関係者を招いて記念式典を開催。山本社長は「長い歴史の中で培ってきた技術力に磨きをかけ、皆さまと共に維持、発展していただけるよう社員一丸となって精進したい」と述べた。

同社は1946年、美祿市に伊佐採石所を発足させて鉢山開発に着手。48年に同鉱山でセメントなどの原料となる石灰石の採掘を始めた。55年には鉢山に隣接する伊佐セメント工場の操業を開始。以降、大型破砕機の導入や採掘方法の転換、美祿市と宇部市を結ぶ「宇部興産専用道路」を建設するなど、生産能力の向上とインフラの充実を進めた。現在は3鉱区で年間約800万トンの石灰石を採掘。2018年度末までの採掘開始を目指し、新たな鉱区の開発も進めている。